



2020年はナイチンゲール生誕200年・看護の日30周年記念

第10回「忘れられない看護エピソード」作品募集

看護する側、受ける側の交流を800字以内で募集、2月21日（金）締め切り迫る
新たに荻野目洋子さんがゲスト審査員に決定

公益社団法人 日本看護協会（所在地：東京都渋谷区／会長：福井トシ子）では、「看護」に関する忘れられない思い出や心温まるエピソードを募る第10回「忘れられない看護エピソード」を、2月21日（金）まで募集しています。そして、このほど新たにゲスト審査員に歌手、女優として活躍する荻野目洋子さんが決定し、「看護という厳しい現場だからこそ生まれる作品を、大切に読ませて頂きたいと思います」とコメントを頂きました。荻野目さんは特別審査員の内館牧子さんとともに審査に当たります。



ゲスト審査員
荻野目洋子さん

厚生労働省と日本看護協会は、毎年5月12日の「看護の日」と同日を含む日曜日から土曜日までを「看護週間」とし、この期間を中心に様々な事業を展開しています。本コンクールはその取り組みの一つで、看護の現場で生まれた心に残るエピソードを募集・表彰するものです。受賞作品を通し、看護の大切さを感じていただくと共に、看護の心やケアの心を育む一助となることを目的としています。

本コンクールでは、看護師など看護を行う側の方々を対象とした「看護職部門」と患者さんやそのご家族など看護を受ける側の方々を対象とした「一般部門」を募集します。さらに今年は「Nursing Now キャンペーン」に合わせ、現役看護職と看護職に就いていた方を対象に、看護の力を発揮して、人々の健康に貢献したことを実感した看護実践・経験についての「Nursing Now 部門」を加えた3部門でエピソードを募集します。各部門において、看護を通じて得られた思い出や体験を広く募り、心温まる印象的な作品を選出します。受賞作品は5月9日（土）の表彰式で発表予定です。

受賞した複数作品は、ドラマ化し、BS日テレで放送するほか、WEBでの公開を行う予定です。本コンクールを通し、多くの人に「看護の心」や生きることの素晴らしさを感じていただく機会となれば幸いです。締め切りが迫っています。どうぞ奮ってご応募ください。

■第10回「忘れられない看護エピソード」について

「看護」を通して得られた、忘れられない思い出やエピソードを広く募集します。

2020年はナイチンゲールの生誕から200年となり、これにちなんで「Nursing Now キャンペーン」が世界的に行われています。そのため、今回は①「看護職部門」②「一般部門」に加え、③「Nursing Now 部門」を設けました。旧厚生省が「看護の日」を定めてから30年目の節目の年でもあり、記念すべきコンクールとなりました。

【コンクール概要】

- ・タイトル : 第10回「忘れられない看護エピソード」
- ・主催 : 厚生労働省、日本看護協会
- ・募集内容 : 看護を通して得られた忘れられない思い出を募集する①「看護職部門」と②「一般部門」、看護の力を発揮して、人々の健康に貢献したことを実感した看護実践・経験エピソードを募集する③「Nursing Now 部門」の3部門でエピソードを募集します。

<本件に関するメディアの方からのお問合せ先>

日本看護協会 PR事務局（インフォメーションセンター）担当：佐々木
Tel:03-3563-3181 Fax:03-3562-5267 E-mail:sohei@info-ginza.com

※いずれも作品には必ずタイトルを付け、800 字以内でまとめてください。(タイトルは文字数に含みません)。原稿用紙/ワープロ、縦書き/横書きなどは問いません。
※「看護職部門」と「Nursing Now 部門」は、現在、国内で看護職に就いている方、または過去に看護職に就いていた方のご応募に限ります。看護学生の方は一般部門でご応募ください。

※「一般部門」は、国内在住の方で、どなたでもご応募頂けます。

- ・応募方法 : 郵送または下記 URL(専用フォーム)より応募。※ハガキ・FAX は不可
【郵送応募の場合】
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 2-10 日本経済広告社ビル 6 階
第 10 回「忘れられない看護エピソード」事務局
- ・URL : <https://www.nurse.or.jp/episode/>
- ・応募締切 : 2 月 21 日(金) ※当日消印有効
- ・審査員 : 特別審査員 内館 牧子(プロフィールは参考資料参照)
ゲスト審査員 荻野目 洋子(プロフィールは参考資料参照)
その他、厚生労働省・日本看護協会関係者などが審査を行います。
- ・賞金 / 賞品 : <「Nursing Now 部門」>
■Nursing Now 賞
ナイチンゲールゆかりの地、ロンドンへの往復航空券(1 作品)
- <「看護職部門」「一般部門」共通>
■最優秀賞 賞金 20 万円(各部門 1 作品)
■内館 牧子賞 賞金 10 万円(各部門 1 作品)
■優秀賞 賞金 3 万円(各部門 3 作品)
■入選 「看護の日」オリジナルナースキティぬいぐるみ(各部門 5 作品)
- 受賞作品から複数を選出し、2020 年夏頃、BS 日テレにてドラマ化します。作品は、日本看護協会ホームページやその他 WEB 上でも公開予定です。
- ・発表表 : 5 月 9 日(土) 表彰式で発表
- ・一般お問合せ先 : 第 10 回「忘れられない看護エピソード」事務局
電話: 03-5282-8071(受付時間/10:00~18:00 土日祝日除く)
メール: episode@operation-desk.jp

【前年度実績】

9 回目の開催となる前回は 2,629 作品が全国各地から集まり、表彰式では受賞 20 作品の発表と最優秀賞・内館牧子賞の表彰が行われました。第 9 回は、悪性リンパ腫で次第に体の自由がきかなくなる中、「まだ一人のできる」ことに合わせて病室の模様替えをして患者さんに寄り添った看護師のエピソード「部屋の模様替え合戦」が「看護職部門」最優秀賞を受賞。2 度の死産を乗り越え、3 度目に子供を授かった女性をずっと「お母さん」と呼び、励まし続けた看護師のエピソード「『お母さん』」が「一般部門」の最優秀賞を受賞しました。

<本件に関するメディアの方からのお問合せ先>

日本看護協会 PR 事務局 (インフォメーションセンター) 担当: 佐々木
Tel:03-3563-3181 Fax:03-3562-5267 E-mail: sohei@info-ginza.com

■参考資料:審査員紹介



特別審査員

内館牧子(うちだて まきこ)

<プロフィール>

脚本家。秋田市生まれ。1988年脚本家デビュー、2006年東北大学大学院文学研究科修了。代表作は、ドラマ「都合のいい女」(フジテレビ)、「ひらり」「私の青空」(NHK連続テレビ小説)、「毛利元就」(NHK大河ドラマ)、小説「義務と演技」(幻冬舎)、「終わった人」(講談社)等。第1回橋田壽賀子賞、文化庁芸術作品賞、日本作詩大賞、放送文化基金賞など多数受賞。

第1回より本コンクールの特別審査員を務めている。

ゲスト審査員

荻野日洋子(おぎのめ ようこ)

歌手/女優

<プロフィール>

1968年12月10日生まれ、千葉県出身。

小学4年生でちびっこ歌番組に何度か出演。その後スカウトされ、5年生でミルクというグループ結成。レコードをリリース。中学2年の終わりに歌手になることを本格的に決意。中学3年から歌手としての準備、そしてオーディションで受かったアニメ「みゆき」の声優の仕事始める。堀越高校1年の春、歌手としてデビュー。17歳の秋にリリースした7枚目のシングル「ダンシング・ヒーロー」で初のベストテン入り。翌年にはアルバム「ノンストップ」でオリコン年間売上1位を取り、一方では映画やドラマ、CMにも多数出演。現在は元プロテニス・プレイヤーの辻野隆三氏と結婚し三人の子供に恵まれる。

その他、厚生労働省・日本看護協会関係者などが審査を行います。

■「看護の日」について

近代看護を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日にちなみ、5月12日は「看護の日」に制定されています。看護の心、ケアの心、助け合いの心を老若男女問わず誰もが育むきっかけとなるよう、旧厚生省により1990年に制定され、2020年は30周年を迎えます。5月12日を含む日曜日から土曜日までを「看護週間」とし、毎年各地で看護に関連したイベントや活動を実施しています。



■「Nursing Now キャンペーン」について

看護職への関心を深め、地位を向上することを目的としたグローバルキャンペーンです。世界保健機関 (WHO) と国際看護師協会 (ICN) が賛同し、ナイチンゲール生誕200年の2020年末まで世界各国でキャンペーンを展開します。日本では「看護の力で健康な社会を！」をテーマに、日本看護協会・日本看護連盟をはじめ様々な団体が活動しています。



■日本看護協会 概要

名称：公益社団法人 日本看護協会

URL：<https://www.nurse.or.jp/>

設立：1947年

所在地：〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-8-2

事業内容：看護職(保健師・助産師・看護師・准看護師)の資格を持つ個人が自主的に加入し運営する、日本最大の看護職能団体。47都道府県看護協会(法人会員)と連携して活動する全国組織で、現在約74万人の看護職が加入中。個人の力だけでは解決できない看護を取り巻く課題を、組織の力で解決し、看護を発展させ、社会貢献する公益社団法人。

<本件に関するメディアの方からのお問合せ先>

日本看護協会 PR事務局 (インフォメーションセンター) 担当:佐々木
Tel:03-3563-3181 Fax:03-3562-5267 E-mail:sohei@info-ginza.com

■参考資料:第9回「忘れられない看護エピソード」最優秀作品

【看護職部門】 「部屋の模様替え合戦」 岐阜県 後藤 史保子さん

ナースコールが鳴る。510号室。

悪性リンパ腫のAさん。化学療法を行うが効果がなく、再発を繰り返している。入院も長期化していた。1日に何度もナースコールが鳴る。看護師の対応や入院生活の不満を漏らしていた。

看護師3年目。チーム編成があり、私はAさんの担当になった。頻回のナースコール、Aさんから聞く不満の声。私に受け止められるだろうか……。

今日もナースコールが鳴る。Aさんの部屋に向かう足は重かった。訪室するとAさんが話し始めた。「治療も効かないし、こんなに足も腫れちゃって。でもね、私はまだ1人で何でもできるの」と。

そして、悲しそうな顔で部屋にあるポータブルトイレに目を落とした。しばらく、沈黙が続く。そしてAさんは、体の変化や迫りくる死の不安などをゆっくり話してくださった。部屋を出るとAさんの娘さんが廊下に立っていた。「母は教師をしていました。生徒から頼られる立場だったのに、今は誰かの手を借りなければならぬことがつらいんだと思います。家でも何でも自分でしないと気が済まない人でした」と娘さん。

その日から私とAさんとの部屋の模様替えが始まった。Aさんの部屋は個室、トイレがある。Aさんの「まだ1人でできる」の言葉。ベッド、床頭台の位置を変え、部屋のトイレまでの距離を縮める。2人でベッドからトイレまでのつかまる位置を確認する。日に日に、Aさんの動ける範囲が狭まる。また2人で模様替え。何度も繰り返した。

徐々に状態が悪化し、トイレへの移動は難しくなった。「もう、無理だね。今まで付き合ってくれてありがとう」とAさん。私は「まだ着替えは自分でできるじゃないですか。ごはんも自分で。まだまだ、付き合いますよ」と応える。「そうだね。まだできることたくさんあるよね」とAさんはうれしそうに笑っていた。

患者のささいな言動に耳を傾け、限られた時間の中でどう生きたいのかを一緒に考えること。患者の思いに寄り添う看護師であり続けたい。

【一般部門】 『お母さん』 山形県 藤本 清美さん

15年前、陣痛で苦しむ私に、「お母さん頑張れ！ お母さん頑張れ！」と、何度も言うナース。私はたまたま、「死んだ子を産むんだから、私、お母さんじゃない」と、泣きながら叫んだ。すると、「何言ってるの！ 赤ちゃんを産むんだからお母さんでしょ！」と、泣きながらそのナースも叫んだ。そして、静かに赤ちゃんが生まれた。男の子だった。

1年後、全く同じやり取りをして2人目の子も死産となった。女の子だった。解剖が終わった娘をあのナースが連れてきてくれた。「とっても美人さんね。お顔にはメス、入れてないからね。はい、お母さん」と言って、娘を私に抱かせてくれた。「またおいで！ 妹でも！ 弟でも！ ねっ！ お母さん！ 信じて！ ねっ！ 生きてね！ お母さん！」

あのナースに、私は何度も「お母さん」と呼ばれた。赤ちゃんはいないのに「お母さん」。にせものの「お母さん」だ。

次の年、妊娠した。この子も死んじやうかも、という不安はあのナースが吹き飛ばしてくれた。「これが、心臓よ！ お母さん！」

「今日はいよいよ性別判明の日ね！ お母さん」。あのナースは、うるさいくらい私のことを、「お母さん」と呼んだ。「お母さん」と呼ばれるのがあんなに嫌だったのに、なんだかだんだん心地良く感じてきた「お母さん」という響き。そして産まれた。

「3人目のお子さん！ 女の子ですよ！ お母さん！」。あのナースはわざわざ「3人目」と言ってくれた。うれしくて泣いた。

娘が「お母さん」と私を呼ぶ。娘のお友達が、「イオちゃんのお母さん」と私を呼ぶ。もう15年も呼ばれているけど、毎回うれしい気持ちになるのは、天国の2人と、産まれてきてくれた娘のおかげ。あと、私を信じて、私のことを「お母さん」と呼び続けてくれたあのナースのおかげ！

ありがとう！ あのナースさん！

＜本件に関するメディアの方からのお問合せ先＞

日本看護協会 PR 事務局（インフォメーションセンター）担当:佐々木
Tel:03-3563-3181 Fax:03-3562-5267 E-mail:sohei@info-ginza.com